

全学共通教育「日本語」・「日本事情」・「国際交流の扉を拓く」

1. 日本語：日本語 1～8 日本事情：日本事情 I～IV

平成 21 年度共通教育「日本語」「日本事情」では以下のクラスを開講した。

- ・ コーディネーター：三隅 友子

概要：

本年は新入学部学生が少なかったため開講しないクラスもあった。また受講者のほとんどが協定大学の交換留学生で、日本語能力試験 1 級以上の能力を持っていたため前期後期を通じて様々な学習活動が展開できた。交換留学の期間が 10 月から 9 月のため、前期と後期では受講者が入れ替わっている。

時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1・2					
3・4			日本事情 I・II	日本事情 III・IV	
5・6					
7・8	日本語 1・2	日本語 7・8			
9・10	日本語 3・4	日本語 5・6			

前期：日本語 1・3・5・7 日本事情 I・III、 後期：日本語 2・4・6・8 日本事情 II・IV

日本語 1 前期

- ・ 担当者： 遠藤かおり
- ・ 受講人数： 3 名（マレーシア 3 名）
- ・ 使用教材： 『大学で学ぶためのアカデミックジャパニーズ』、
佐々木瑞枝他 The Japan Times
- ・ 概要：
本講義では、テキスト中心に各課のテーマに沿った内容を扱った。授業の流れとしては、まず学習する課のテーマに関する予備知識を確認し、新出語彙を説明した後、会話練習や聴解、読解、要約、作文などの練習に入るという流れである。留学生が大学生活に慣れること、そして大学生活をしていく上で必要な日本語力を身につけ、大学での様々な場面に対応できることを目標とした。そのためクラスでの活動は、留学生が実際に遭遇するであろう場面を設定し行った。

日本語 2 後期

対象受講者がいなかったため、開講せず。

日本語 3 前期

- ・ 担当者： 三隅友子
- ・ 受講人数： 8名（マレーシア1名、韓国3名、中国4名）
- ・ 使用教材： 『パパとムスメの7日間』 館ひろし、新垣結衣主演 DVD
TBS テレビ、及び 視聴用自主作成補助教材
- ・ 概要：
生教材を使うことよって、より現実に近い日本語を学ぶことを目標とした。特に本教材では、学校、家庭そして会社という場面によって違う、生きた「日本語」と、コミュニケーションに必要な非言語の要素（表情・声・動作）にも注目し、ストーリーを理解するだけでなく深く日本語及び日本社会を理解することを目的とした。学生の言葉や会社での地位による待遇表現の使い分け等を確認し、また話し合いを行った。

日本語 4 後期

- ・ 担当者： 三隅友子
- ・ 受講人数： 6名（中国3名、韓国3名）
- ・ 使用教材： 『お金がない！』 織田裕二主演 DVD フジテレビ映像企画部、及び 視聴用自主作成補助教材
- ・ 概要：
生教材を使うことよって、より現実に近い日本語を学ぶことを目標とした。特に本教材では、会社と家庭や友人関係という場面によって違う、生きた「日本語」と、コミュニケーションに必要な非言語の要素（表情・声・動作）にも注目し、ストーリーを理解するだけでなく細部の日本語及び日本社会を理解することを目的とした。またアフレコによる場面練習も取り入れて、日本語で役割を演じることも試みた。

日本語 5 前期

- ・ 担当者： 大石寧子
- ・ 人数： 3名（ベトナム1名、韓国2名）
- ・ 使用教材： 「大学・大学院 留学生の日本語3論文読解編」 アカデミック・ジャパニーズ研究会 アルク、新聞・雑誌、広告 他
- ・ 概要：
大学生活においてレポート・論文は勿論のこと、様々な文章を書く機会が多い。そのための表現力（語彙力・文法力・文章構成力）を身につける。異な

ったタイプの文章の読解演習を入口として、「読む」能力をアップさせると共にそれを支える「書く、話す、聞く」の四技能全てを伸ばす様々なタスクをピアワークを通して行った。最終的には自分の思いや考えを短い文の中で最も的確に表現する手段として①自国②徳島大学または母国の大学③徳島の3つのキャッチコピーを作成した。

日本語6 後期

- ・ 担当者： 大石寧子
- ・ 人数： 5名（韓国2名、中国3名）
- ・ 使用教材： 「ピアで学ぶ大学生活の日本語表現」大島弥生他 ひつじ書房、「日本語Eメールの書き方」築 晶子他 The Japan Times 他
- ・ 概要：
大学生活で必要な「小論文作成」を最終到達とした。論文の書き方の前に、短い文の中に必要最低限の情報を盛り込む練習として「メールの書き方」を学習した。お願い・誘い・お詫び・断りなどをテーマにし、作成上のルール、構成、添付方法なども含めて学び、宿題の提出を実際にメール添付の形で毎回実施した。その後小論文の作成を目標とし、マッピングやピアワークでテーマを決め、それ以降もクラスのメンバー、日本人学生、地域日本人とのピアレスポンスを通して論点の絞り込みを行い、書き進めていった。またデータの1つとして、アンケートの作成・摂り方・集計・分析のしかたも学習した。

日本語7 前期

- ・ 担当者： 三隅友子
- ・ 受講人数： 5名（韓国2名、中国3名）
- ・ 使用教材： 『視点・論点』NHK テレビ放送番組
及び 関連資料と自主作成教材
- ・ 概要：
NHK 総合テレビにて放映される「視点・論点」の中から随時ピックアップしたものを教材として使用した。国際問題、社会問題、事件等を専門家が8分間で解説し、専門家としての提言を理解することと、話し手のスピーチスタイルに関する学習を目的とした。最終課題として、「日本人への提言」原稿を作成しそれをもとにしたスピーチ発表会を日本人の聴衆の前で行った。スピーチのテーマは以下のとおりであった。

1. 「日本語の美しさと優しさー阿波のことばー」

2. 「正しいりんごの切り方」
3. 「異文化を理解するために」
4. 「日本の印象」
5. 「人間と水」

日本語 8 後期

- ・ 担当者： 三隅友子
- ・ 受講人数： 6名（韓国3名、中国3名）
- ・ 概要：

NHK 総合テレビにて放映される「視点・論点」の中から随時ピックアップしたものを教材として使用した。国際問題、社会問題、事件等を専門家が8分間で解説し、専門家としての提言を理解することと、話し手のスピーチスタイルに関する学習を目的とした。最終課題として、「日本人への提言」原稿を作成した。授業内で扱ったテーマは以下のとおりであった。

1. 「海岸線の今を追って」
2. 「水の大切さを見直そう」
3. 「父・孫玉福」
4. 「薬物依存、視点変換の可能性」
5. 「新型インフルエンザへの対応」
6. 「成人の日に思う」

日本語 I 前期

- ・ 担当者： 坂田浩
- ・ 受講人数： 6名（韓国2名、中国3名、マレーシア1名）
- ・ 概要：

日本各地の文化について概説を行い、日本国内の多様性について講義を行った。内容としては、①都道府県の地理、②各地方の名産・名所の解説、③各地方の方言、④日本で有名なお祭りなどを取り上げ、日本の多様性を理解する一助とした。また、その日の新聞を用いて政治・社会問題についての解説も行った。受講生からは「最初は分からなかったけど、この授業で知識を得てからは、テレビのニュースが理解できるようになってきたので面白くなってきました」などのコメントを得ることができた。

日本語 II 後期

- ・ 担当者： 坂田浩
- ・ 受講人数： 5名（韓国2名、中国3名）

- ・ 概要：
後期の授業では「徳島」に焦点を当て、徳島の地理を学ぶことを行った。徳島県内の市町村名、徳島市内の主な地名に関する講義やテストを行い、徳島の地理に関する理解を深めるようにした。また、前期同様、授業の初めに新聞やインターネットを使って時事問題の解説を行った。受講生からは「日本の政治資金問題は全く分からなかったのですが、ダミーの会社を使って政治家にお金を渡す方法が分かったことで、「なるほど、自分の国と同じだ！」と納得した」などのコメントを得ることができた。

日本語Ⅲ 前期

- ・ 担当者： 三隅友子
- ・ 受講人数： 4名（中国2名、韓国2名）
- ・ 概要：「徳島を『食べる』プロジェクト」
吉野川が徳島独自の農業に重要な役割を果たしていることにヒントを得て、また留学生の日本の食についてさらに学びたいという要望から、実施に至った。前半は「玄米先生の弁当箱（魚戸おさむ画、北原雅紀原作）」のマンガを使い、食文化に関するトピック（食育・メタボリック・箸文化等）について理解を深めた。そして県内の様々な機関や施設に出向き、特に「食べる」ことを意識して、さらに五感を使う体験学習を進めた。前期は受講者4名が分担し、訪問機関ごとの感想による報告書を作成し、関係機関に送付した。

2009年前期 講義及び体験活動
1 県立書道文学館（瀬戸内寂聴展）
2 薬用植物園（薬学部）
3 給食体験（吉野川市鴨島中学校）
4 上勝町研修（「山の学校」宿泊）
5 百姓一・日進酒類（JA とくしま）
6 家庭料理（渭北公民館）



帰国前に副学長と

日本語Ⅳ 後期

- ・ 担当者： 三隅友子
- ・ 受講人数： 6名（ベトナム1名、韓国2名、中国3名）
- ・ 概要：「吉野川プロジェクト」
メインテーマを「徳島を知る－吉野川の役割－」とし、徳島のシンボル、心

の故郷「吉野川」を様々な側面から学んだ。各分野の人から「吉野川」に関する話を聞く、また関連する施設を訪問する、活動を通して吉野川に関する理解を深めた。最終課題は各自テーマを見つけて調査を進め、パワーポイントによる発表を行った（2月11日、聴衆約60名）。

2009年後期 講義及び体験活動	
1	新町川クルーズ（新町川を守る会）
2	薬用植物園（薬学部）
3	吉野川の概要（国土交通省）講義
4	吉野川清掃（アドプトプログラム）
5	吉野川の農業（野田靖之氏）講義
6	吉野川と第十堰（姫野雅義氏）講義
7	観光資源としての吉野川 （徳島県西部総合県民局）



「吉野川の農業」

2. 共通教育 共創型学習「国際交流の扉を拓く」後期 金成海、橋本智、三隅友子

- ・ 受講人数： 11名
- ・ 目標：

私たちのまわりの「文化」を日本人と外国人の視点からとらえ直す。受講者の対話を通して「文化」・「交流」とは何かを考える。①国際交流とは②異文化理解とは③共に生きるとは、をテーマに「異文化コミュニケーション」「日本語と文化理解」「留学生事情」をはじめとし、様々な視点から講義及び体験学習を行う。
- ・ 実施内容：

受講者は留学生6名、社会人3名、日本人学生1名という構成であった。外部講師による講義と体験学習が2回、その他ワークショップによるコミュニケーションの体験学習、講義さらに採取的には「文化」に関するテーマによる各自の発表を行った。様々な視点から受講者が協力した学習活動が可能となった。

（本紙紀要6号「共創型学習活動の可能性—国際交流の扉を拓く—」論考を掲載。）